

日本におけるベンチャーファイナンスのあり方

近年、スタートアップ育成 5 年計画などを背景として、ベンチャー企業数や資金調達額は増加傾向にある。また少数ではあるが、ユニコーン企業も誕生している。しかし、発展の余地はまだまだあるように考えられる。そのため、日本のベンチャー企業の「資金調達」「非上場株式市場」「出口戦略」など、ベンチャーファイナンスの現状や課題について分析し、より良いものにするための具体的方策について考えてほしい。

【論点 1】ベンチャー企業の資金調達の現状と課題

ベンチャー企業の資金調達方法は多岐にわたり、その成長ステージに応じて多くの課題が存在している。例えば、海外 VC 等からの投資が有効であるのかなど、十分な見解が得られていないようなケースもある。そこで、成長ステージごとに現状の資金調達の方法を整理し、そこから見出される課題を明らかにしてほしい。（なお複数のステージで被る課題がある場合、まとめて記載してもよい）

【論点 2】資金供給者の現状と課題

近年では、VC やエンジェル投資家に加えて、銀行や海外 VC などリスクマネーの供給主体は多様化しつつある。しかしながら、日本におけるリスクマネーの供給量は諸外国と比較して依然として少なく、課題が存在していると考えられる。こうした背景には、資金供給者ごとの規制や非上場株式市場の未熟さに加え、ファンドを運営する GP と出資者である LP との関係性などの構造的な要因が影響している可能性がある。そこで、各資金供給者の現状を整理したうえで、それぞれが抱える課題を考えてほしい。

【論点 3】出口戦略における現状と課題

出資者がベンチャー企業へ出資する目的は多岐にわたるが、最終的には IPO、M&A 等を通じた資金回収を期待している。日本では従来、IPO に偏りがちであった出口戦略にも近年は変化がみられ、M&A の活用も徐々に広がっている。一方で、それぞれの手法には企業価値の合意などの様々な課題が指摘されている。出口戦略の現状と課題について、企業、出資者などの幅広い視点から考えてほしい。

【論点 4】望ましいベンチャーファイナンスに向けた具体的方策

論点 1、2、3 で議論した内容を踏まえ、日本における望ましいベンチャーファイナンスの定義付けをしてほしい。（こちらは多様な観点から考えていただきたい）その後、各論点で明らかになった現状と課題を踏まえ、これらの諸課題を改善する具体的な提案を独自性と実現可能性の観点から考えてほしい。

【留意点1】 ステークホルダー

ベンチャー企業は、成長するにつれて様々なステークホルダーと関係をもつ。そのため、ベンチャー企業から見た視点だけでなく、起業家や出資者など様々な視点を持ってほしい。

※補足説明

・ベンチャー企業の定義は「新しい技術、新しいビジネスモデルを中核とする新規事業により、急速な成長を目指す新興企業」とする。

・どのような出口戦略が望ましいかは企業ごとに異なるため、単純に「IPO が最善」「M&A が最善」と結論づけるのではなく、それぞれの機能と課題を比較しながら論じること。